

第3回審議会における各論に係るご意見一覧

資料5

基本目標	施策	意見	重複
1	全体	全世代型地域包括ケアの話が出ていたが、高齢者の認知症施策、母子の包括ケア、医療的ケア児の問題などについて、計画や施策が十分でない。	基本目標2に再掲
	全体	文化・芸術・科学などが育まれる環境が乏しい。多様化の時代であり、スポーツ以外分野でも、子どもたちが自信を持って、将来に向かって成長できるような環境づくりが必要ではないか。人を育てる、人づくりの項目も入っているのではないか。	
	1-4	スポーツ施設は高齢化が進んでいる中、いかに健康で長く生きるかを考えるといういろいろな活用が考えられる。そういう意味では、子育て・教育・人権分野と福祉・生活分野は密接した関係があり、うまく連携しながら進めていければいい。	2-1に再掲
	1-4	スポーツについては、ハード面の課題も多いが、結局その施設を各団体がいかに有効に活用するかがポイントとなると思う。	
	1-4	子どもたちと文化をつなぐような環境づくりが必要である	
	1-6	外国人の労働者が増えているが、市民としての彼らにどのように対応していくかも課題の一つ	
2	全体	全世代型地域包括ケアの話が出ていたが、高齢者の認知症施策、母子の包括ケア、医療的ケア児の問題などについて、計画や施策が十分でない。	基本目標1に再掲
	全体	中高年のひきこもりと高齢者の親の生活について、いわゆる8050問題がある。ひきこもりはなかなか発見がしにくく、また、これを貧困の分野で対応するのか、障がい者の分野で対応するのか、相談に行ってもたらい回しにされるという問題も出ていると聞く。そうした切り口で課題を捉えておかないといけない。	
	全体	厚生労働省は地域共生社会ということを言っていて、これは地域社会の中で包括的に様々な課題を全方位で考えていく、そして共に助け合っていくというイメージであり、野洲市の未来にそれをどういうふう位置付けていくか、皆様のお知恵をいただければと思う。	
	全体	まちづくりはお金を得る方向もあるが、出ていかないように医療費の削減や健康寿命の維持等も必要である。	
	2-1	スポーツ施設は、高齢化が進んでいる中、いかに健康で長く生きるかを考えるといういろいろな活用が考えられる。そういう意味では、子育て・教育・人権分野と福祉・生活分野は密接した関係があり、うまく連携しながら進めていければいい。	1-4に再掲
	2-2	特別養護老人ホームについて、現在でも入居待ちが発生している。今後の高齢化も見据え、高齢者の居住・生活支援についても検討する必要がある。	
	2-2	介護職の人材不足の問題もあり、ハード面ソフト面共に検討していかないといけない。人材育成というのは時間がかかるし、野洲市だけで対応するのは難しいとも思うので、広域で考えるのも1つの方法かもしれない。	
2-2	介護の面では、他市にはあるが野洲市にはない施設があり、在宅での介護がしにくい状況がある。野洲市として対応していくところを具体的に出していないといけない。		

基本目標	施策	意見	重複
3	全体	市の特産品がないため、新たに開発することで市のPRにつながる。	
	3-1	企業と協力しながらにぎわいづくりを行っていくことも必要	5-1に再掲
	3-2	農林漁業の多面的機能の発揮についての論点を取り入れてほしい。	
	3-3	人口が減少する中でまちを活性化していくためには、外から人が集まるようにする必要がある。交流人口、関係人口を増やしていく必要がある。そのために、琵琶湖をターゲットとした観光の振興なども考えていくべき。	
4	全体	環境という熟語には意味がいろいろあるが、地球温暖化の問題、琵琶湖の保全という視点がはっきり見える形で議論させてもらいたい。	
	4-2	子どもたちだけでなく、大人も含め、自然に親しみ遊ぶことのできる場所があまりない。現在はボランティアで保全されているが、高齢化しており後継者がいないため、今後無くなってしまうかもしれないと危惧している。	
5	全体	企業の方から、従業員を増やしても野洲には住むところがない、何とかしてほしいという声をよく聞く。長期構想できちんと考えていかないといけない。	
	5-1	野洲駅周辺の活性化について、活性化のビジョン・イメージをもう少し明確にした方がいい。駅周辺に来ればくつろげる、健康づくりができるなど活性化のイメージが広がると良い。	
	5-1	市街化区域を増やしてほしい。また、市街化区域となったら活用が図られるよう、計画的に進めていくことが必要である。	
	5-1	企業と協力しながらにぎわいづくりを行っていくことも必要	3-1に再掲
	5-3	バスについて、交通機関としてのインフラではあるものの、民間事業者のため利益を出す必要があり、それについて市民と認識のずれが大きい。人口減少に伴う利用客の減少、乗務職などの人材不足など、様々な問題に直面しており、今後のあり方について検討していく必要がある	
	5-3	公共交通の重要性は市民意向調査から見てもトップのニーズだったが、ニーズは高くても実際は乗らない。コンパクトシティのまちのあり方を考えるのは公共交通と密接に結びついたテーマであり、環境保全、交通整備などの関連テーマも含め、一体的に考えないといけない。どれだけ連携して考えていけるかというのが重要。	
6	5-3	市民アンケートの中でもJRが便利であるということが上位を占め、それが特色となっている。利便性が高いところは住みやすいが、現在市街地が少なく、住みたいと思っても住めない課題がある。人口が減っていくとJRも本数を減らさざるを得ないという悪循環になるので、今の本数を維持できるように定住人口の増加に努力いただきたいと思う。	
	6-1	市民は、「こうしてほしい」「ああしてほしい」という希望を市に言うだけでなく、自分たちで変えていく・作っていくべき。そのために、商工会や金融機関などと連携した、市民を応援する仕組みづくりが必要。	

基本目標	施策	意見	重複
その他	-	現状の課題を克服するためにこうするという視点と、30年後40年後の将来の理想像を眺めながらまずは10年こうしていくという視点と、その両輪で計画を立てていきたい。	
	-	市内の地域差についても考えていけないといけない。	
	-	それぞれの施策について言えると思うが、多様性というのを重視してもらえればと思う。ひきこもりについても、ひきこもっているからといって何もできない人ではなく、長けたところもあるはずであり、活躍していける場が見つかるような文言でまとめていければいい。	
	-	未来の野洲市の可能性は、それぞれの地域の違いを埋めるということもあるが、同時にその違いをいろいろな側面で認め合うことでもっと豊かな野洲市になるかもしれない。	
	-	<p>将来のあるべきすがたとして、以下9つを提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①誰もが健康長寿でピンピンコロリを達成しているまち</li> <li>②自動パーソナルモビリティでいつでもどこでも行けるまち</li> <li>③自然と調和し、地域の持ち味を生かしたまち</li> <li>④人と機械が共存しているまち</li> <li>⑤すべての住人が都市経営に参加意識を持っているまち</li> <li>⑥育児支援システムが充実し、社会全体で協力して子育てするまち</li> <li>⑦想定以上の災害に対しても深刻な被害とならない安全・安心なまち</li> <li>⑧食料・エネルギーをある程度自給自足できているまち</li> <li>⑨みんなに行き渡る質の高い教育環境が確保されたまち</li> </ul>	